

ぶんぼう

① **NをV**

れんしゅう 1

「を」は、他動詞の目的語となる名詞の後ろにつく助詞である。

ぎゅうにゆうを 飲みますか。

まいあさ シャワーを あびます。

A: 今日 何を しますか。

B: D V D を 見ます。

★動詞「します」にはいくつかの用法がある。

a. 一般的に、「一般的に「ある行為を行う」という意味がある。タイ語の[tham]、英語の動詞 do に似ている。

しゅくだいを します。

b. 「“スポーツ”をします」はそのスポーツをするという意味である。

あさ テニスを します。

c. 「べんきょうします」「せんたくします」「そうじします」等の「します」で終わる動詞は、「します」を削除すると、動作・行為を表す名詞(動名詞)になる。

べんきょう

せんたく

そうじ

従って、文の動詞として使う時、二つの用法がある。

目的語 を 動詞 (べんきょうします、せんたくします、そうじします)

えいごを べんきょうします。

トイレを そうじします。

動作・行為の名詞 (べんきょう、せんたく、そうじ) を します

勉強や掃除などの具体的な内容を言う時、その名詞に「の」つけて動名詞を修飾する。

えいごの べんきょうを します。

トイレの そうじを します。

② **(時点)ごろ**

れんしゅう 2-3

「ごろ」は時点(時刻)を表す語の後ろにつき、だいたい時点(時刻)を表す。

ばんごはんは 7時ごろです。

ある動作を行う時点(時刻)の後ろにつける場合、「ごろに」か「ごろ」、どちらを使っても良い。

5時ごろ(に) かえます。

よる 10時ごろ(に) おわります。

「ごろ」も「ぐらい」もタイ語で[pramaan]という意味であるが、「ごろ」が時点(時刻)にのみ用いられるのに対して、「ぐらい」は人数や時間の長さなど、数量を表す言葉に用いられる。

9時ごろ ねます。

9時間ぐらい ねます。

③ 時間 V

れんしゅう 2-3

動作を行う時間の長さを言う時には、助詞をつけない。また、おおよその時間を言いたい場合は、「ぐらい」をつける。

まいばん 1時間 日本ごの べんきょうを します。
10分ぐらい シャワーを あびます。

④ (場所)で V

れんしゅう 4-5

「で」は、動作が行われる場所の後ろにつく助詞である。

きょうしつで CDを 聞きます。

りょうで ごはんを 食べます。

A: どこで はなを かいますか。

B: この ちかくの はなやで かいます。

⑤ QW が V か

れんしゅう 6

日本語のQW(疑問詞)には「だれ、何、どこ、どれ、どのN」がある。これらのQWを主語で用いる場合には、助詞「が」を使う。QW(疑問詞)の後には助詞「は」は使わない。

また、答える時は「QW が」に対する答えの主語に、助詞「が」をつける。

A: だれが スパゲッティを 作りますか。

B: わたしが 作ります。

A: はこの 中に 何が いますか。

B: ねこが います。

A: どの 人が マレーシア人ですか。

B: マヌーンさんの みぎの 人が マレーシア人です。

動詞や述語を省略して答える場合、「Nです」で答える。

A: どの 人が マレーシア人ですか。

B: マヌーンさんの みぎの 人です。

⑥ 頻度の副詞

れんしゅう 5,7

動作を行う頻度を表す副詞は以下のとおりである。

いつも +動詞の肯定形 [mák cà]

いつも 6時に おきます。

ときどき +動詞の肯定形 [baaŋ khráŋ]

ときどき かぞくと テレビを 見ます。

あまり +動詞の否定形 [mây khôy]

あまり しんぶんを よみません。

ぜんぜん +動詞の否定形 [mây ... læøy]

ぜんぜん てがみを かきません。

⑦ Sか、Sか

まんがでまとめ

「お茶を飲むか、それともコーヒーを飲むか」のような、相手を選択する質問をする時は、疑問文を2つ並べて一文にする。2つの疑問文の間に「、」をつけても良い。答える時は「はい」「いいえ」は使わない。

A: 朝は コーヒーを 飲みますか、こうちやを 飲みますか。

B: コーヒーを 飲みます。

すずきさんは 男の 人ですか、女の 人ですか。

じてんしゃで 行きますか、あるいて 行きますか。

ぶんぼう

① 数 (100、1,000、10,000)

れんしゅう 1、4、7

百単位

100	ひゃく	200	にひゃく
*300	さんびゃく	400	よんひゃく
500	ごひゃく	*600	ろっぴゃく
700	ななひゃく	*800	はっぴゃく
900	きゅうひゃく	?	なん 何びゃく

千単位

1,000	せん	2,000	にせん
*3,000	さんぜん	4,000	よんせん
5,000	ごせん	6,000	ろくせん
7,000	ななせん	*8,000	はっせん
9,000	きゅうせん	?	なん 何ぜん

万単位

10,000	いちまん	20,000	にまん
30,000	さんまん	40,000	よんまん
50,000	ごまん	60,000	ろくまん
70,000	ななまん	80,000	はちまん
90,000	きゅうまん	?	なん 何まん

*発音に変化があるため注意。

② Nは いくらですか。

れんしゅう 1、7

「いくらですか。」は、トピックとして取り上げられた N の値段を聞く表現である。一方、値段を言う時は「(値段)です。」という文型を使う。

A: この チョコレートは いくらですか。

B: 340 ^{さんびやくよんじゅう} パーツです。

③ 助数詞

れんしゅう 2-4

人や動物、物の数の数え方はタイ語と同様に、数字の後ろに助数詞を置く。この課では以下の助数詞を取り上げる。

「まい」は、紙、切手、CD、シャツ、ハンカチ、コイン、皿など、平たくて薄い物に使う。

1	いち 一まい	2	に 二まい
3	さん 三まい	4	よん 四まい
5	ご 五まい	6	ろく 六まい
7	なな 七まい	8	はち 八まい
9	きゅう 九まい	10	じゅう 十まい
?	なん 何まい		

「だい」は、テレビ、ラジオ、車、自転車、コンピューター、カメラなど、機械や電気機器に使う。

1	いち 一だい	2	に 二だい
3	さん 三だい	4	よん 四だい
5	ご 五だい	6	ろく 六だい
7	なな 七だい	8	はち 八だい

9	きゅう 九 ^{だい}	10	じゅう 十 ^{だい}
?	なん 何 ^{だい}		

「さつ」は、ノート、本、辞書などを数える時に使う。

* 1	いっ 一 ^{さつ}	2	に 二 ^{さつ}
3	さん 三 ^{さつ}	4	よん 四 ^{さつ}
5	ご 五 ^{さつ}	6	ろく 六 ^{さつ}
7	なな 七 ^{さつ}	* 8	はっ 八 ^{さつ}
9	きゅう 九 ^{さつ}	* 10	じゅう 十 ^{さつ}
?	なん 何 ^{さつ}		

「本」は、ペン、鉛筆、ネクタイ、ベルト、ズボン、傘、花、木、バナナ等の細長い物、線、円筒形の物、そして巻かれている物に使う。

* 1	いっほん 一 ^本	2	にほん 二 ^本
* 3	さんほん 三 ^本	4	よんほん 四 ^本
5	ごほん 五 ^本	* 6	ろっほん 六 ^本
7	ななほん 七 ^本	* 8	はっほん 八 ^本
9	きゅうほん 九 ^本	* 10	じゅうほん 十 ^本
* ?	なんほん 何 ^本		

「つ」は、消しゴム・果物・腕時計などの、塊状の物や断片になっている物に使う。また、注文した料理や、机・椅子などの家具を数える時にも使う。数え方は他の助数詞と違う。

1	ひと 一 ^つ	2	ふた 二 ^つ
3	みつ 三 ^つ	4	よつ 四 ^つ
5	いつ 五 ^つ	6	むっ 六 ^つ
7	なな 七 ^つ	8	やっ 八 ^つ
9	この 九 ^つ	10	とお 十
?	いくつ		

それぞれの十以上の数の数え方は、最小の桁によって変わる。

16本	=	じゅうろっほん 十六 ^本	21さつ	=	にじゅういつ 二十一 ^{さつ}
-----	---	-------------------------	------	---	--------------------------

「つ」は例外である。十一以上の数は、助数詞を伴わずに数字のみを使う。

14	=	じゅうよん 十四	28	=	にじゅうはち 二十八
----	---	----------	----	---	------------

助数詞を伴わない十一以上の数は「つ」のグループに入っているということになる。単価を言ったり聞いたりする場合、「1+助数詞」を値段の前に置いて言う。

A: えはがきは ^{いち}一まい いくらですか。

B: ^{いち}一まい 100 ^{ひゃく}えんです。

ぶどうは ^{いち}一キロ ^{ひゃくろくじゅう}160 ^{ひゃく}パーツです。

二つ以上の品物、または、全部の品物の合計の値段を言う場合は、物の数の後ろに助詞「で」をつける。

りんごは ^{むっ}六つで ^{ひゃく}100 ^{ひゃく}パーツです。

これは ^{ぜんぶ}ぜんぶで 13,870 (いちまん ^{さんぜん}さんぜん ^{はっぴやく}はっぴやく ^{ななじゅう}ななじゅう) ^{えん}えんです。

助数詞の役割と機能

時間の長さや数量の副詞「たくさん」と同様に、文中で使われる場合、助詞をつける必要はない。

うちには せんぷうきが 何だい ありますか。
毎日 りんごを 一つ 食べます。
ノートを 三さつ かいます。

ただし、だいだいの数を言いたい場合は「ぐらい」をつける。

学校の としょかんには 本が 何さつぐらい ありますか。

文末の動詞を修飾する名詞と数が二つ以上の場合、それらを「と」で接続して並列する。

父は 朝 パンを 二まい と たまごを 一つ 食べます。
かばんの 中に カメラが 一だいと、 本が 三さつ あります。

数がある名詞の種類や特徴を示す場合は、「の」をつけてその名詞の前に置く。

70 えんの きつてが ありますか。

④ N を ください。

れんしゅう 4、7

相手に物を求める表現である。

その けしゴムを ください。
さとうと しおを ください。

求める物の数は「ください」の前に置く。

五十えんの きつてを 一まい ください。
アップルパイを 一つと チキンパイを 二つ ください。

⑤ S ね。

れんしゅう 4

「ね」は文末につく助詞である。この課で紹介するのは次の用法である。

5.1 聞き手に内容を確認するときに使う。

客：ハンバーガーを 一つと チーズバーガーを 二つと コーラを 三つ ください。
店員：ハンバーガーを 一つと チーズバーガーを 二つと コーラを 三つですね。

5.2 聞き手が同意をしてくれるだろうと思うときに使う。

わあ、きれいな 店ですね。
いろいろな ネクタイが ありますね。
ああ、いい 色ですね。

5.1 の内容確認するときの「ね」の発音は 5.2 の「ね」より短く、疑問文の「か」と同様に高いイントネーションになる。

⑥ 形容詞の修飾用法（連体形の形容詞）

れんしゅう 5-7

日本語の文は、名詞の修飾語は必ずその名詞の前に来る。この課では、名詞修飾語の一つである「形容詞」を紹介する。日本語の形容詞は日本語の形容詞は名詞を修飾する形（連体形）が「い」で終わる「い形容詞」と、「な」で終わる「な形容詞」の二種類に分かれている。

6.1 「い」形容詞：「い」で終わる形容詞

しろい かるい
小さい おおきい
からい あまい
おいしい

名詞を修飾する場合、そのまま名詞の前に置く。

しろい くるま
かるい かばん
しろい くるまを かいます。

6.2 「な」形容詞

きれい ゆうめい
にぎやか しずか

名詞を修飾する場合、「な」をつけて名詞の前に置く。

きれいな ^{いろ}色
ゆうめいな レストラン
ここは ゆうめいな レストランです。

⑦ **どんな N**

れんしゅう 6

名詞の形や種類について聞く表現である。タイ語では[bèep nǎy]や[yàaŋ rai]である。

A: りょうは どんな ところに ありますか。

B: にぎやかな ところに あります。

答えは形容詞だけでなく、種類や形を示す名詞で答えることも可能である。

A: どんな 本が 好きですか。

B: まんがが 好きです。

⑧ **こちら、そちら、あちら、どちら**

れんしゅう 7

「こ、そ、あ、ど」で始まるこのグループは代名詞で、丁寧な形として使われる。人間、動物、物、場所を問わず、「こ、そ、あ、ど」で始まる他の代名詞に代用できる。例えば、「ここ」、「これ」、そして「この人」を「こちら」で言い換えると、聞き手や「こちら」で指し示された人に対する敬意を表す、丁寧な言い方になる。

〈友達を先生に紹介する〉

先生。こちらは ウェオダオさんです。わたしの 友だちです。

〈リーさんに学校の名前を聞く〉

リーさんの 学校は どちらですか。

このグループの言葉は方向を言うためにも使われる。用法は、指示詞「こ、そ、あ、ど」と同様に、指し示された物や場所と話し手と聞き手との遠近関係による。

こちら	話し手の方向	[thaan níi]
そちら	聞き手の方向	[thaan nân]
あちら	両者の方向ではない方向	[thaan nôon]
どちら	どの方向	[thaan nǎy]

〈客を案内する〉

こちらへ どうぞ。

		場所	物	名詞修飾
こ	こちら	ここ	これ	このN
そ	そちら	そこ	それ	そのN
あ	あちら	あそこ	あれ	あのN
ど	どちら	どこ	どれ	どのN

⑨ 名詞に代わりをする「の」

れんしゅう6

形容詞で修飾された名詞が、話し手と聞き手の間に共通の理解がある物事の場合、その名詞に代わって「の」を使うことができる。

あきこ：すみません。ペンを ください。

てんいん：はい。青いのも 赤いのも あります。

あきこ：青いのを ください。

「NのN」の場合も同様である。後者のNが、話し手と聞き手の間に共通の理解がある物事であれば、それを省略して「Nの」にしても良い。

たなか：コットンの ハンカチは ありますか。

てんいん：はい、コットンのは こちらです。

おおきい かばんは わたしのです。小さいのは やまださんのです。

ただし例外として、後者のNが人間である場合は「の」で置き換えられない。

リー：パッチャニー先生は 何の 先生ですか。

あきこ：○ 日本ごの 先生です。

× 日本ごのです。

⑩ Nに します。

まんがでまとめ

いくつかの物の中から、どれを選ぶか決めた結果を言う表現である。

ニパー：あきこさん、飲みものは 何に しますか。

あきこ：わたしは コーラに します。

⑪ Nは どうですか。

まんがでまとめ

「どうですか。」はタイ語の[pen yangrai khrab/kha]と同じ意味で、トピックの「N」に関して、性質、状態、状況などの情報を求めたり、話し手の意見や感想を聞いたりする表現である。

この課では、「Nはどうですか。」は、聞き手に何かを提案して意見や判断を聞く表現として扱う。

〈パーティーの時間を決める〉

こばやし：あさっての ゆうがた 6時は どうですか。

アーノン：はい。あさっての ゆうがた 6時ですね。

〈相手に飲み物を出す時〉

マリワン：おちゃは どうですか。

たけした：ありがとうございます。おねがいします。

⑫ 色名の形容詞

まんがでまとめ

色を表す「い」形容詞は6つある。

赤い

青い

くろい しろい
きいろい ちやいろい

これらの形容詞は「赤^{あか}、青^{あお}、くろ、しろ」といったように「い」をとると名詞になり、その色自体のことを意味する。

わたしは 赤^{あか}が 好きです。 赤^{あか}い ふくが たくさん あります。

タイ語の[sii arai]は、日本語で「どんな 色^{いろ}」あるいは「何色^{なにいろ}」という。答えは形容詞ではなく、名詞で答える。

A: 先生の かさは 何色^{なにいろ}ですか。

B: くろです。

ぶんぼう

① 年月日

れんしゅう 1、2

1.1 日付

日本語の日付は下記のとおりである。

日	月	火	水	木	金	土
	1 ついたち 一日	2 ふつか 二日	3 みっか 三日	4 よっか 四日	5 いつか 五日	6 むいか 六日
7 なつか 七日	8 ようか 八日	9 ここのか 九日	10 とおか 十日	11 じゅういちにち 十一日	12 じゅうににち 十二日	13 じゅうさんにち 十三日
14 じゅうよっか 十四日	15 じゅうごにち 十五日	16 じゅうろくにち 十六日	17 じゅうしちにち 十七日	18 じゅうはちにち 十八日	19 じゅうくにち 十九日	20 はつか 二十日
21 にじゅういちにち 二十一日	22 にじゅうににち 二十二日	23 にじゅうさんにち 二十三日	24 にじゅうよっか 二十四日	25 にじゅうごにち 二十五日	26 にじゅうろくにち 二十六日	27 にじゅうしちにち 二十七日
28 にじゅうはちにち 二十八日	29 にじゅうくにち 二十九日	30 さんじゅうにち 三十日	31 さんじゅういちにち 三十一日			

A: 今日は ^{なんにち} 何日ですか。B: 今日は ^{とおか} 十日です。

これらの日付の言葉は、日数を表す時にも使われる。例えば、「三日」は「月の三日目」という日付を意味する[wan thii säam]の場合と「三日間」という日数を意味する[sääm wan]の場合がある。日数を言う場合には、「三日間」のように、後ろに「～間」をつける。「一日」は例外である。

日数は「～間」をつけないと、日付と同じ形になるが、文中で動詞を修飾する時は助詞で区別することができる。動作が行われる日付には助詞「に」か「ごろ」がつくのに対して、日数には助詞がつかない。おおよその日数を言いたいときには「ぐらい」をつけることができる。

テストは ^{むいか} 六日に あります。 (日付)テストは ^{むいか} 六日 あります。 (日数)^{とおか} 十日ぐらい 日本へ かえります。 (日数)

1.2 月

1 から 12 までの数字の後ろに「月」をつけて言う。

一月 いちがつ							二月 にがつ							三月 さんがつ						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31

四月 しがつ							五月 ごがつ							六月 ろくがつ						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5						1	2
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
29	30						27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

七月 しちがつ							八月 はちがつ							九月 くがつ						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4							1
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
29	30	31					26	27	28	29	30	31		²³ / ₃₀	24	25	26	27	28	29

十月 じゅうがつ							十一月 じゅういちがつ							十二月 じゅうにがつ						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3							1
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
28	29	30	31				25	26	27	28	29	30		²³ / ₃₀	²⁴ / ₃₁	25	26	27	28	29

A: 今月は ^{こんげつ} 何月 ^{なんがつ} ですか。B: 今月は ^{こんげつ} 八月 ^{はちがつ} です。

1.3 年

数字の後ろに「年」をつける。

1989 年 ^{ねん} せん きゅうひゃく はちじゅう きゅう ねん2016 年 ^{ねん} にせん じゅうろく ねん注) 年月日の数字は一般的には、漢字で書いても、アラビア数字で書いても良い。
年月日を言う時、年・月・日という順で言う。おうさまの たんじょう日は ^{しちがつにじゅうはちにち} 七月二十八日です。ソクラーンの ^ひ 日は ^{しがつじゅうさんにち} 四月十三日です。

今日は ^{にせんじゅうろくねん}2016年 ^{くがつ}9月 ^{はつか}20日です。

年月日が、動作が行われる時間として動詞を修飾する時は、曜日と同様に助詞「に」をつける。

よしださんは ^{らいねん}来年 ^{いちがつ}一月に 日本へ かえります。

バレーボールの しあいは ^{じゅうがついついたち}十月一日に はじまります。

② 述語の形容詞(終止形の形容詞)

れんしゅう 3-4

2.1 「い」形容詞

a. 肯定形: 「です」をつける。

この りょうの だいどころは せまいです。

この 学校の こうていは ^{ひろ}広いです。

マーニットさんの ちは ^{だいがく}大学から とおいです。

b. 否定形: 「い」をとって「くない+です」をつける。

あの りょうの だいどころは せまくないです。

あの 学校の こうていは ^{ひろ}広くないです。

あの人の ちは ^{だいがく}大学から とおくないです。

例外: いい ⇒ よくない+です

この じしょは よくないです。

2.2 「な」形容詞

a. 肯定形: 「です」をつける。

この テーブルは じょうぶです。

この かしゅは ゆうめいです。

b. 否定形: 「ではありません」をつける。

あの テーブルは じょうぶではありません。

あの かしゅは ゆうめいではありません。

③ (目的)に 移動動詞

れんしゅう 5

「行く、来る、帰る」の目的を表す文型であるが、目的には2種類の形がある。

3.1 目的が動詞である場合

Vます + に + 行きます/来ます/かえります

おんがくを べんきょうしに 行きます。

レポートを だしに 行きます。

れっしやの きつぶを ^か買いに 行きます。

3.2 目的が動作・行為の名詞である場合

動作・行為の名詞 + に + 行きます/来ます/かえります

おんがくの べんきょうに 行きます。

だれと ^か買い物に 行きますか。

動作の場所を表すには、助詞「へ」が使われる。

ばいてんへ 食べものを ^か買いに 行きます。

うちへ カメラを とりに かえります。

ゆかさんは ^{らいげつ}来月 タイへ タイごの べんきょうに 来ます。

④ 誘いの文

相手に何か一緒にしようと誘う時、「～ませんか。」を使う。

やすみに チャームへ りょこうに 行きませんか。
今日の 昼ごはんは サンドイッチに しませんか。
いっしょに えいがを 見に 行きませんか。

⑤ 誘いの受け方、断り方

5.1 誘いを受ける場合、「Vましょう」、または「そうしましょう。」で答える。

誘いかけ文：いっしょに 日本りょうりを 作りませんか。

答え1 : はい、作りましょう。 / いいですね。作りましょう。

答え2 : はい、そうしましょう。 / いいですね。そうしましょう。

5.2 誘いを断わる場合、日本人は直接的に断わず、「～は ちょっと…」という表現を使う。

a. 誘われた日時 of 都合が悪いと断わる場合、「(日時)はちょっと…」という表現を使う。

A: いっしょに 日本りょうりを 作りませんか。

B: すみません、今日は ちょっと…。

b. 誘いを断わる場合、「(内容)はちょっと…」という表現を使う。

A: いっしょに 日本りょうりを 作りませんか。

B: すみません、日本りょうりは ちょっと…。

⑥ S よ。

「よ」は文末につく助詞で、いろいろな意味がある。この課では、相手に、相手が知らない有益な情報を与える場合の「よ」を取り上げる。

〈メニューを見て料理を注文する〉

この おべんとうに しませんか。おいしいですよ。

〈先生に試験について聞く〉

チョーク：先生。ごごの テストは むずかしいですか。

やまかわ：むずかしくないですよ。

⑦ QW か

疑問代名詞に「か」をつけると、疑問の意味がなくなり、不特定な代名詞になる。

だれか [khray khon nùŋ] [khray bâaŋ khon] someone, anyone

何か [arai sàk yàaŋ] [arai bâaŋ yàaŋ] something, anything

どこか [thiinăy sàk hèn] [thii dai thii nùŋ] somewhere, anywhere

いつか [sàk wan nùŋ] some time, someday

どれか [an năi sàk an] which one

この ふうとうの 中に 何か ありますよ。

えいがは いつも だれかと いっしょに 見ます。

また いつか このまちへ 来ます。

疑問文で疑問代名詞が使われた場合、「はい」と「いいえ」で答える。

A: どこかで おみやげを 買いませんか。

B: はい、買いましよう。

A: こんどの やすみに どこかへ あそびに 行きますか。

B: いいえ、行きません。

ぶんぼう

① 過去形

過去に起きた出来事、または、過去にあった状態について言う時、述語である動詞、形容詞、「N です」を過去形にする。

1.1 動詞の過去形

れんしゅう 1-2

a. 肯定形：「ます」が「ました」になる。

あきこさんは 海の えを たくさん かきました。

山田さんは 1994年 七月七日に 生まれました。

先月 父と チェンライへ あそびに 行きました。

先生は きのう いなかから バンコクへ かえりました。

b. 否定形：「ません」が「ませんでした」になる。

おととい じゆくへ 行きませんでした。

今朝 シャワーを あびませんでした。

母は 今日 昼ごはんを 作りませんでした。

1.2 形容詞の過去形

れんしゅう 3-4

い形容詞

a. 肯定形：「い」をとり、「~かった」+「です」をつける。

例外：いい ⇒ よかった + です

ごごは 暑かったです。

ゆうべの 日本の ドラマは よかったです。

パーティーの ゲームは 楽しかったです。

b. 否定形 ~くない ⇒ ~くなかった + です

きのうは 暑くなかったです。

ゆうがたの 日本の ドラマは よくなかったです。

先週の パーティーの ゲームは 楽しくなかったです。

な形容詞

a. 肯定形：「です」が「でした」になる。

きのうの テストは かんたんでした。

b. 否定形：「ではありません」が「ではありませんでした」になる。

おとといの テストは かんたんではありませんでした。

1.3 「です」の過去形

a. 肯定形：「です」が「でした」になる。

b. 否定形：「ではありません」が「ではありませんでした」になる。

先週はずっとあめでした。

A: あの 店は きのう やすみでしたか。

B: いいえ、やすみではありませんでした。

動詞の活用表

現在形	肯定形	行きます。
	否定形	行きません。
過去形	肯定形	行きました。
	否定形	行きませんでした。

い形容詞の活用表

現在形	肯定形	暑い ^{あつ} です。
	否定形	暑くない ^{あつ} です。
過去形	肯定形	暑 ^{あつ} かったです。
	否定形	暑 ^{あつ} くなかったです。

な形容詞の活用表

現在形	肯定形	かんたんです。
	否定形	かんたんではありません。
過去形	肯定形	かんたんでした。
	否定形	かんたんではありませんでした。

「Nです」の活用表

現在形	肯定形	月よう日です。
	否定形	月よう日ではありません。
過去形	肯定形	月よう日でした。
	否定形	月よう日ではありませんでした。

② 接続表現の「が」

れんしゅう2

逆接の接続表現で、前の文の終わりにつき、次の文をつなげる。

わたしは 泳^{およ}ぎましたが、スリーラットさんは 泳^{およ}ぎませんでした。

町の中は にぎやか^{まち}かでしたが、ビーチは しずか^{まち}かでした。

ヌムくんは 高校一年生^{こうこういちねんせい}ですが、わたしは 高校二年生^{こうこうにねんせい}です。

あの 青い^{あお} はこは おもい^{おも}ですが、この 赤い^{あか} はこは おもく^{おも}くないです。

③ 程度の副詞

れんしゅう4

「とても、すこし、あまり、ぜんぜん」は形容詞の前に置いて、その形容詞の程度を表す副詞である。中には、程度の副詞としての意味と頻度の副詞としての意味の両方を併せ持つ副詞もある。

とても + 肯定形 [mâak]

先週は とても いそが^{いそ}しかったです。

このちかくに とても ゆうめい^{ゆうめい}な お寺^{お寺}が あります。

すこし + 肯定形 [nít nòy]

きのうは すこし さむ^{さむ}かったです。

このカレーは すこし からい^{からい}です。

このやさいは すこし にがい^{にがい}です。

あまり + 否定形 [mây khôy]

うちの にわ^{にわ}は あまり 広^{ひろ}くないです。

先週^{せんしゅう}の コンサートは あまり よく^{よく}な^{よく}かったです。

このはいゆう^{はいゆう}は あまり ゆうめい^{ゆうめい}ではありません。

ぜんぜん + 否定形 [mây ... ləəy]

夜^よは ぜんぜん 暑^{あつ}くないです。

きのうの えいが^{えいが}は おもしろ^{おもしろ}くな^{おもしろ}かったです。

このマンゴーは ぜんぜん すっぱくないです。

④ **どうでしたか。**

はなしてみましよう

「どうでしたか。」は、相手に、過去のことについて、意見や感想を求める時に用いる。

〈山川先生があきこにホワヒン旅行について感想を聞く〉

山川先生：^{やまかわ}りょうこうは どうでしたか。

あきこ：とても ^{たの}楽しかったです。

現在のことにについて聞く場合、「どうですか。」で聞く。

〈山川先生があきこにタイ語の授業について感想を聞く。〉

山川先生：タイごの ^{やまかわ}じゅぎょうは どうですか。

あきこ：すこし むずかしいですが、おもしろいです。

⑤ **QW も**

はなしてみましよう

疑問代名詞に「も」をつけて文の述語を否定形にすると、「すべて…ない、全然…ない」(タイ語 [mây...lǎəy]) という意味になる。その疑問代名詞が主語の場合は主語の後の「が」が、目的語の場合は目的語の後の「を」が省略される。疑問代名詞が、動作の行われる時間、場所、共同動作をする者などの場合は、「に」「へ」「で」「と」などの後ろに「も」を用いる。

うちには ^なだれも ^いいません。

今朝は ^け何も ^{なに}食べませんでした。

このまえの ^ひ日よう日には ^{どこ}どこへも ^い行きませんでした。

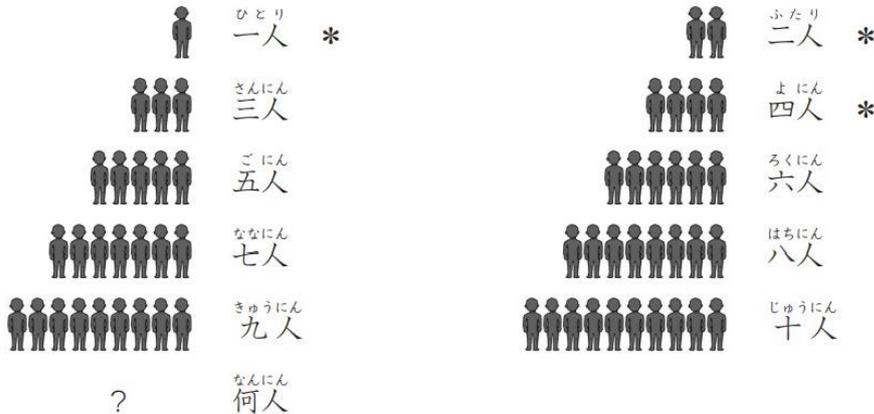
れいぞうこは ^{どの}どのへやにも ^ありません。

ぶんぼう

① 人数の数え方

れんしゅう 2-3

人数の助数詞は「～人」である。



A: このクラスは 何人ですか。

B: ^{さんじゅうご}35人です。日本人は ^{きゅうにん}九人 来ました。

数は漢字で書いても数字で書いても良い。

② 兄弟の人数の言い方

れんしゅう 2-3

本人も含めて兄弟の数を聞いたり言ったりする時、「人数+兄弟」を使う。

A: パイトゥーンさんは ^{なんにんきょうだい}何人兄弟ですか。B: ^{よにんきょうだい}四人兄弟です。

兄や姉の人数を詳しく言う場合には、第3課の「～がいます。」を使う。

^{あに}兄と ^{あね}姉がいます。^{おとうと}弟が 二人います。^{あに}兄が ^{さんにん}三人と ^{いもうと}妹が ^{ひとり}一人 います。

③ Nは Nが Adj

れんしゅう 4-9

これは、主題である名詞（「は」の前のN）の形態や性質について説明する文型である。主題である名詞の一部の要素（「が」の前のN）を中心に、どんな形態や性質を持っているのかを説明する。

3.1 人間や動物や物の形、顔つき、性質などを説明する

^{おとうと}弟さんは からだが 大きいですね。^{あか}赤ちゃんは かみのけが とても やわらかいです。このいしは ^{かたち}形が おもしろいですね。このノートは ^{かみ}かみが うすいです。この町は ^{みち}みちが せまいです。

3.2 好み、得意な分野、特技を言い表す

上の ^{あに}兄は ^{おんがく}おんがくが ^{だいす}大好きです。

あきさんは えが ^{じょうず}上手です。
^{いもうと}妹は すうがくが とくいではありません。
 わたしは りょうりが にがてです。

④ 動詞の辞書形

れんしゅう 10-11、13-14

「Vます」形は丁寧体で、これは動詞の活用形のひとつである。それ以外にも様々な動詞の形があるが、この課では、動詞の他の活用形を紹介する。この形は、辞書に出ている形なので、「辞書形」と呼ばれる。

V辞書形とは、辞書の見出しとして掲載される動詞の形であり、Dictionary Formとも呼ばれる。この教科書ではVdicと省略する。動詞の意味を一般の辞書で調べる時、この辞書形で検索しなければならない。また、辞書形は基本形とされ、以下で紹介する「ます形」も含めて様々な形に活用する。

動詞の活用のさせ方は、次のように動詞のグループによって異なる。グループ1なのかグループ2なのかは、辞書形の最後の拍をみればある程度判断できる。

Vグループ1 う、く、ぐ、す、むなどのような/u/の音で終わる辞書形の動詞

買う (買います)
 行く (行きます)
 泳ぐ (泳ぎます)
 はなす (はなします)
 あそぶ (あそびます)
 よむ (よみます)
 ある (あります)

Vグループ2 える、れる、いる、きるなどのような/i/る、/e/るの音で終わる

いる (います)
 おきる (おきます)
 ねる (ねます)
 食べる (食べます)

ただし、/i/る、/e/るの音で終わるが、グループ1に入る例外の動詞「帰る」などもあるため注意が必要である。

Vグループ3 他のグループと違う活用形をとる動詞

くる (来ます)
 する (します)

V辞書形から、Vます形へ活用する

「ます形」は文末に来る丁寧形である。V辞書形からVます形への活用は以下の通りである。

Vグループ1 /u/の音を同じ行の/i/の音に変え、「ます」をつける

うたう ⇒ うたいます
 聞く ⇒ 聞きます
 泳ぐ ⇒ 泳ぎます
 だす ⇒ だします
 あそぶ ⇒ あそびます
 おわる ⇒ おわります

辞書形がVグループ2に似ているが、Vグループ1に入る動詞「帰る」のます形への活用は以下の通りである。

かえる ⇒ かえります

Vグループ2 「る」をとって、「ます」をつける

見る ⇒ 見ます
 かりる ⇒ かります
 ねる ⇒ ねます
 生まれる ⇒ 生まれます

Vグループ3 下記の通りである

来る ⇒ 来ます
 する ⇒ します

⑤ Vdicのが Adj

れんしゅう 11

3.2の「Nは Nが Adj」は、好み、得意な分野、特技などを表す。その好きなことや得意な分野が動詞である場合、その動詞を辞書形にして代名詞「の」をつけて名詞化させ、「Vdicのが Adj」という形にする。

弟は むしの しゃしんを とるのが 好きです。
 リーさんは 日本の うたを うたうのが とても 上手です。
 あのせんぱいは 泳ぐのが とくいです。
 わたしは みんなの まえで はなすのが にがてです。

⑥

Nは	Nが	できます。
	V dic ことが	

れんしゅう 12-14

「できます」は、何かをする能力を表す動詞で、下のような形で使われる。

Nが できます。

メーティニーさんは タイダンスが できますか。
 山田さんは タイごが できます。

Vdic ことができます。

上の 兄は ピアノを ひくことが できます。
 あきこさんは 一人で うちへ かえることが できます。

⑦ 年齢の言い方

よんでみましょう

「～才」という助数詞を使う。

いっさい *一才	にさい 二才	さんさい 三才
よんさい 四才	ごさい 五才	ろくさい 六才
ななさい 七才	はちさい *八才	きゅうさい 九才
じゅうさい *十才	はたち *二十才	なんさい 何才、おいくつ

A: 妹さんは おいくつですか / 何才ですか。

B: 十三才です。